

# 平成30年度 第1回 石垣市観光プラットフォーム会議

石垣市観光アドバイザーであり、マーケティング・コンサルタントの谷口正和氏による基調講演のほか、石垣市内の様々な業種の方々と交えたパネルディスカッション形式の意見交換会を開催いたします。(全2回予定)

世界各地の観光リゾート地だけでなく、国内でも白川郷や鎌倉など、地域住民の暮らしや自然環境と観光産業とのバランスが課題となっていますが、私たちの暮らすこの石垣島が目指すべき理想の姿とは...

今年5月1日よりWEB上にておこなっている石垣市民対象のアンケート結果を基に、様々な角度から今後の石垣島の在り方について紐解いていきます。

世界的な旅行ムーブメントに湧く観光マーケットの中で、石垣島に暮らす私たちに何が出来るのか、また何を目標していけばいいのか、これらを学ぶ機会としても是非ご参加ください。

開催日時 / 2018年6月8日(金) 17:30~19:30

会場 / 石垣市健康福祉センター2階 視聴覚室 (入場無料)

プログラム / ①基調講演「世界に学ぶ デザインシティの魅力」

谷口 正和 (石垣市観光アドバイザー)

②パネルディスカッション「市民の声から紐解く島の観光の在り方」

【パネリスト】(予定・順不同)

前津 秀一郎 (石垣市観光交流協会事務局)、請盛 真実 (東海交通合資会社)、

砂川 佳之 (石垣島ビール株式会社)、大田 守雄 (アートホテル石垣)、

野村 君代 (ピンクパイロンプライズ)、根原 工 (石垣市特産品振興協同組合事務局)、

中西 康治 (写真家)、鈴木 倫太郎 (WWF サンゴ礁保護研究センター)、

伊集 満枝 (八重山高校教諭)



講師・コーディネーター  
谷口 正和

石垣市観光アドバイザー  
マーケティング・コンサルタント

株式会社ジャパンライフデザインシステムズ  
代表取締役社長

立命館大学大学院経営管理研究科教授 (2003年4月~2013年3月)

東京都立大学都市生活学部客員教授 (2009年4月~2013年3月)

●略歴

1942年京都生まれ。京都鴨沂高校を経て武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科卒業。生命、生活、人生の在り方を問う「ライフデザイン」を企業理念そのものとし、地球と個人の時代を見据えて常に次なる価値観のニューモデルを提示し続ける。

コンセプト・プロデュースから経営コンサルティング、企業戦略立案、地域活性化計画まで幅広く活動。時代を連単位で分析し続けている週刊「IMAGINAS(イマジナス)」はウィークリー情報分析誌の草分け的存在。

会員制ワークショップとして、21世紀の新マーケット・パラダイム「文化経済」市場の商業、観光、産業の経営を学ぶ「文化経済研究会」を主宰。

日本デザインコンサルタント協会・副代表理事、日本小売業協会・生活者委員会コーディネーター、日本オリーブ協会・理事、豊の園遊人塾・塾長、立命館大学大学院経営管理研究科・教授 (2003年4月~2013年3月) / 客員教授 (〜現在)、武蔵野美術大学評議員を務める。

# 第1回 石垣市観光プラットフォーム会議 会議要旨

日時：平成30年6月8日（金）18時～

場所：石垣市健康福祉センター視聴覚室

進行：観光文化課 課長 仲大底まゆみ

## 1. 開会（課長：仲大底まゆみ）

## 2. あいさつ（市長：中山義隆）

## 3. 基調講演

「世界に学ぶデザインシティの魅力 / 谷口 正和（石垣市観光アドバイザー）」

コンパクトシティの概念が根付いているヨーロッパのまちを事例に、そこに共通した概念である「デザイン」を戦略的な課題解決として、これらのまちがどのようにして小さな単位で観光拠点といわれるまちになったのか考えていく。

### フィジー、タヒチ（南太平洋）

フィジーやタヒチは、一部だけはものすごく良くて、ほかは手付かずの部分もあるが、映画のロケ地に選ばれるなど、世界を代表する島になっている。ある部分に集約して、圧倒的に「綺麗なところ」「小さな単位」を丁寧に作れば、そこに世界のセンスの良い人が集まる。

「共感の輪は美意識に依属する」という力を借りてデザインすることによって、その境界の情報が波及していく。絶対にごみ一つ落とさないというところを作るなどして、そこを大事にすれば、それを評価する人が来るようになり、結果ごみは無くなっていく。

### ビルバオ（スペイン）

ビルバオは、かつては廃墟のようなまちであった。しかし、田舎だけれども今後の理想があるまちに「美術館を作る」というスモールミュージアム構想の地に選ばれたことによって、まちは革命的な変化を遂げた。アート&ネイチャーとして、まず、徹底的に水をきれいにし、さらに周辺の一部のところだけに緑を植えてグリーンパークにしたところ、それを求めてくる人たちが集まるようになり、まちがアートによって新たなチャンスを得た。

### シアトル（アメリカ）

シアトルでは、「ビジネスシティ」に対する「ライフスタイルシティ」として、オーガニックやシティファーマー的なビジネスではなく、生活を第一としたまちを作り上げた結果、アメリカ西海岸で一番住みたい地域の1位になった。都市と田舎、消費者と生産者を分けないという考え方が、未来的な施策としてとらえられ、農水省が視察に訪れるようなまちになっている。

## カンヌ（フランス）

石垣市と人口規模が同等のまちの事例としてフランスのカンヌが挙げられる。映画に凝った、情熱を持った人たちが映画館をつくり、新人の映画監督にチャンスを与える映画祭という発想を具現化した。それが最終的には、世界的に有名な都市になり、まちの価値を上げる結果へとつながった。

## まとめ

突出した個性は取材される。そのために、小さくてもいいからその限界を徹底的に綺麗に、面白くするような発火点を作ることが重要である。自分でやるだけではなくて、世界で優れた人の力を借りるという謙虚さも必要である。石垣市役所の新庁舎の設計を隈研吾さんをお願いしたのは、素晴らしい発火点になると思う。

新しいリゾート地として、世界の本当に優れたクリエイター、建築家、そういう人たちが集まって意見を言うような領域をつくる。一転突破ができるように、濃縮された理想というものを我々は組み立てて、開かれたデザインプロジェクトという美の条例みたいなもので、それだけは絶対に守るという流れを作っていくことがポイントとなる。

## 4. パネルディスカッション「市民の声から紐解く 島の未来の在り方」

### 【パネリスト】

前津 秀一郎（石垣市観光交流協会事務局）、請盛 真実（東海交通合資会社）、砂川 佳之（石垣島ビール株式会社）、大田 守雄（アートホテル石垣）、野村 君代（ピンクパイロンブライズ）、根原 工（石垣市特産品振興協同組合事務局）、中西 康治（写真家）、鈴木 倫太郎（WWF サンゴ礁保護研究センター）、伊集 満枝（八重山高校教諭）

### 【コーディネーター】

谷口 正和（株式会社ジャパンライフデザインシステムズ代表取締役社長）

### 事務局：

「石垣島の観光に関する住民意向アンケート」結果概要について説明。

### 鈴木（WWF サンゴ礁保護研究センター）：

住民は自然の恩恵を受けている。観光客が増えると自然に対する負荷も確実に増える。観光資源である自然を守ることによって、より観光客の方も恩恵を受けるような、持続可能な観光を目指してほしい。

### 谷口（コーディネーター）：

目標設定をして、それを目標値として置いておくとうまくいくと思う。

**伊集（八重山高等学校教諭）：**

島にいる高校時代に石垣島の魅力を知って、外に出て行って、外の目線で島のあり方を考えてほしい。

**谷口：**

石垣を救うのは、石垣で生まれ育った子だけではなく、むしろ全く関係のないところで生まれ育った人が移住してというものが、石垣が持っているエンジンではないか。

**中西（カメラマン）：**

観光というと、人を呼ぶために戦略的にデザインしてというものがあるが、いちばんは、この魅力ってなんだろうというものをみんなで掘り下げて、そこに向かって何かをつくっていくというものが本来の姿だと思う。

**根原（石垣市特産品振興協同組合事務局）：**

島の人たちの島の特産品に対する認知度が低い。子どもたちにも、島のよさを感じて外に出て行ってほしい。インバウンドのお客さんとの調和が取りきれていない。ごみ・トイレの問題。受け入れるという体制の中で、どういう活動ができるかを考えていきたい。

**谷口：**

市場のトイレを徹底的に綺麗にするというようなことをやる。地元だからではなく、誰がどんな風にこの商品をつくっているのかということによって商品が売れる。

**野村（ピンクパイロンブライズ）：**

子どものころは島から出たいという思いが強かったが、島に帰ってきて、バスガイドの業務を通して島の勉強を始めた。今はウエディングを通して高校生たちの育成に取り組んでいる。島にはもう少しドラマチック・ロマンチックなデザインが必要。沿岸にカフェテラスやベンチを設置するなど、施設・スポットが充実すればよい。

**谷口：**

地元の子どもたちに、島内で修学旅行のバスツアーをすると良いのではないか。

**大田（アートホテル石垣）：**

海岸沿いのリゾート施設ではない、まちなかにある宿泊施設のブランディングとして、方言を使った接客や島唄ライブを開催するなど、島の文化を体験してもらうということに取り組んでいる。

**谷口：**

方言などを強制すれば、どこかに脱出していくかもしれない。循環型の人材育成が必要。

**砂川（石垣島ビール株式会社）：**

石垣島にはみやげ物が少ないということで、青年会議所の先輩と石垣島ビール株式会社を立ち上げた。新石垣空港開港以来、製造が追いつかないという状況で、観光客増加の恩恵は受けているが、従業員に還元できていない。零細企業が成長していくバックアップ・仕組みづくりが必要。

**請盛（東海交通合資会社）：**

タクシー業は、クルーズ船インバウンド客の恩恵を受けている業種でもある。しかし、他に対して迷惑をかけている部分もあり、クルーズ船入港時には市民や国内の観光客がタクシーを利用できず、川平湾にはタクシーとバスがあふれている。このままではリピーターの減少が懸念される。この問題をタクシー業だけでなく、石垣市全体で考えていきたい。

**谷口：**

タクシーだけでなく、電動アシスト付自転車を買うなど、もっとやるといいのではないかな。

**前津（石垣市観光交流協会事務局）：**

ゴミや公衆トイレの問題が目立つ。綺麗な観光地に行っても、トイレが汚いと非常に残念な気持ちになる。毎年、夏休み前には石垣市役所の関係部署とともに市内の観光地の視察をして、改善要望書を提出し、若干ではあるが毎年少しずつ改善されている。ただ、急激に伸びている観光客には追いついていない。

**谷口：**

問題がなんなのかということを明確にし、小さなことでもアイデアを出して解決するというトレーニングが、連鎖を起こし、全体に波及する。

「誰かがやってくれるだろう」ではなく、小さくてもいいから、まず自分で行動を起こすことで流れを変えることができる。そういったことを踏まえて、自分達が石垣島の価値そのものを担っているという意識の波及効果が大事である。

**5. 閉会**

## 【参考資料】

# 平成 30 年度 第 1 回石垣市観光プラットフォーム会議実施要項

## 1. 目的

石垣市観光基本計画〔改訂版〕に則り、本市の観光状況を取り巻く現状の把握や課題点を抽出するべく、石垣市民の観光客に対する期待や不満、観光施策への要望等といった市民一人ひとりの声を拾い上げ、今後の観光施策に活かしていくことを目的として市民向けアンケートをおこない、その結果内容について、多種多様な業種の市民が参加し、情報の共有化と課題に対する対応について意見交換をおこなう場として、石垣市観光プラットフォーム会議を開催する。

## 2. 概要

主催：石垣市（所管／観光文化スポーツ局観光文化課）

日時：平成 30 年 6 月 8 日（金曜日）開場 17:00/開演 17:30/終演 19:30 予定

会場：石垣市健康福祉センター2 階 視聴覚室

備考：入場無料

## 3. プログラム

### I. 基調講演（40 分）

「世界に学ぶ デザインシティの魅力／谷口 正和（石垣市観光アドバイザー）」

### II. パネルディスカッション（50 分）

「市民の声から紐解く島の観光の在り方」（市民アンケート結果について意見交換）

### 【パネリスト】

前津秀一郎（石垣市観光交流協会事務局）、請盛真実（東海交通合資会社）、  
砂川佳之（石垣島ビール株式会社）、大田守雄（アートホテル石垣）、  
野村君代（ピンクパイロンブライズ）、根原工（石垣市特産品振興協同組合事務局）、  
中西康治（写真家）、鈴木倫太郎（WWF サンゴ礁保護研究センター）、  
伊集満枝（八重山高校教諭）

### 【コーディネーター】

谷口正和（株式会社ジャパンライフデザインシステムズ代表取締役社長）